

意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成

～表現につなげる活動の工夫～

I 主題設定の理由

本研究会では、毎年、研究会で学んだことを授業で生かせるように、部会員による具体的な実践報告およびその検討を主とした研究を行っている。

本年度は「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～表現につなげる活動の工夫～」を研究テーマとして、小中連携という視点も踏まえ、小学校の教員と中学校の教員とで同じテーマの元、研究を進めていく。

昨年度までは「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～書くことにつながる音声活動の工夫～」というテーマのもと、「書くこと」につながる音声活動に焦点をあてた研究を行ってきた。しかし、これまでの学習指導要領にあった「話すこと」についての項目が、新学習指導要領(小学校は2020年度より、中学校で来年2021年度より完全実施)においては、「話すこと(やり取り)」と「話すこと(発表)」の2つの領域に細分化されることも受け、今年度は「書くこと」だけではなく「話すこと」を加えた「表現につなげる活動の工夫」についての研究を深めていきたい。

さらに今年度は新型コロナウイルス感染症蔓延防止の対策をする関係で、従来行ってきた「ペア」や「グループ」での対話的な活動が難しい状況である。どのような活動・授業を展開していけば、活動が制限された中においても児童・生徒たちにとって効果的な「表現につなげる活動」ができるのかについても研究を深めていきたい。

さらにもう一点具体的な視点として、特に教科書題材(学習資料)をどのように扱って児童・生徒の意欲を高めていくかということについての研究も含めたい。教科書は授業の中心となる学習教材であり、小学校においても教科書が新たに導入されることになるので、教科書の題材からどのように児童・生徒の意欲を引き出す授業をしていくのかという「視点」や「考え方」を学習することはどの教師にとっても重要なことであり、かつ、一つの教科書を小中両方の教員で見ることによって「小中連携」ということにもつながることが期待できる。

児童・生徒達が、「書くこと」や「話すこと」といった表現の活動に苦手意識を持たずに、より意欲的に、より積極的に英語学習に取り組めるように、活動を工夫していく。英語学習において小学校と中学校の連携を軸に、児童・生徒が「楽しい」と漢字、「わかる」と思う授業を創造することで、学習社がより意欲的に取り組むと考え、本研究テーマを設定した

II 研究の内容

1. 実践レポート発表

「表現につなげる活動の工夫」について、校種・学年別に分かれ、教科書の指定した部分について一人一実践を行い、研究討議を行った。

2. 授業実践研究

小学校部会 松里小学校 渡邊皓 先生 「What's this?」

中学校部会 山梨北中学校 荻原彩花 先生 「The Movie Dolphin Tale」

今年度は8月に授業研究を行わなかったために、2月に小学校、中学校の授業研究を同時に行った。事前の指導案検討については、小学校部会、中学校部会に別れて2回行った。新型コロナウイルス感染予防対策として、研究授業はライブでは行わず、事前にビデオカメラで収録し、その収録した映像を用いて小学校部会、中学校部会を別室で研究討議を行った。

III 成果と課題

1. 部会の構成・研究方法について

研究日程が少ない中で別れて研究（同学年や近い学年同士など）することで、実践を生かせることにつながった部分があった。しかし、「小中連携」という視点からみると、指導案検討・統一授業研も別で行ったので今年度はほとんどお互いの部会を様子をみられず、課題が残った。2021年度もコロナ禍での学校生活、研究という状況が考えられるので、小中連携の部分をどのように設けるかということを考えていきたい。

2. 実践レポートの発表について

レポート発表においては、同じ学年（近い学年）同士で行ったことにより、有意義な意見交換ができた。表現につながる工夫についての実践を持ち寄ったことで、意見交換の幅も広がり、有意義な研究の場となった。

3. 授業研究について

ライブで授業を見られないのは残念だったが、コロナ禍においては仕方が無いところがあった。事前収録した映像による発表は、気になるところを停止して見ることができたり、複数台のカメラで収録していたことで、同じ場面を複数の生徒達の様子を見ることができたりしたなど利点もあった。また、普段の授業研究の時よりも、より「普通の」授業に近いリラックスした状態で臨めたなどの利点もあった。

（部長 廣瀬 剛）